

令和元年度Ⅰ期 グループ企画1

| 番号 | 氏名 | 渡航先 | 国・地域 | 渡航先での受入期間 |
|----|------|----------|--------|-----------------|
| 1 | M. F | インドネシア大学 | インドネシア | R1/8/21-R1/8/22 |
| 2 | N. S | | | |
| 3 | H. S | | | |

2019年度岸本国際交流奨学金による海外活動実施報告書

| | | | |
|--------|----|------------|--------|
| 医学部医学科 | 3年 | 学籍番号：***** | 氏名：M・F |
|--------|----|------------|--------|

| | |
|--------------|--------------------------|
| 渡航先国： | インドネシア |
| 受入機関名： | インドネシア大学（17th IMSPQへの参加） |
| 渡航先機関での受入期間： | 令和1年8月21日～令和1年8月22日（2日間） |

1. 活動の目的

8月21日および22日の2日間に渡り、インドネシアのジャカルタにて第17回国際生理学クイズ大会（Inter Medical School Physiology Quiz、以下IMSPQ）が開催された。我々は、IMSPQへの参加およびその準備を通して、生理学および医学英語の知識を深めるとともに、世界各国からの参加学生との交流を通して、国際的視野を養うことを目的に活動を行った。

2. スケジュール

大会は8月21日、22日の2日間インドネシア大学にて行われた。また、大会前の空き時間を利用して、生理学・医学英語の学習を深めるとともに、周辺の世界遺産見学を通して現地の文化や生活を体感した。

| 日程 | 内容 |
|-----------|---------------|
| 8月18-19日 | 移動（日本→インドネシア） |
| 8月19日、20日 | 事前準備および周辺観光 |
| 8月21日、22日 | IMSPQ大会当日 |
| 8月23日 | 移動（インドネシア→日本） |

3. 活動内容

IMSPQ（国際生理学クイズ）は英語を母国語としない国の医学生が世界各国から集い、大学対抗のクイズ形式にて生理学の知識を競い合うと共に、各国の医学生同士の交流を目的としたイベントである。2003年から毎年開催され今年が17回目となるが、アジア諸国に留まらずロシアやルーマニアなどアジア外からの参加も複数あり、計約100大学の代表チームが集結した。

大会初日の午前には筆記試験が行なわれた。筆記試験の内容は、75分間で100問のTrue/False Questionで、その後のラウンドに進出できる大学が半分に絞られる。問題の難易度は、大学の定期試験と同程度だと感じたが、英語で問われている分、正確に文意が掴め

ない箇所や知らない用語などもあり力が発揮できず、我々は筆記での敗退となった。

それ以降のラウンドは口述での出題に対して、ボードに答えを記載するもの、口頭での説明を求めるものなどがあつた。もちろん全て英語で行われ、回答の制限時間が設けられているため、即座に問題を理解・考察して回答する必要がある。我々はオーディエンスとしての参加であつたが、筆記試験を上位突破した優秀な学生の圧倒的なパフォーマンスに驚くばかりであつた。

その他、大会初日にはインドネシア大学の現役医学生に大学構内を案内してもらったり、Cultural Night と呼ばれる各国の文化交流の時間を楽しんだりもした。

4. 成果

大会成績としては筆記試験での敗退となつてしまつたが、大会を通じて英語と医学知識両面での力不足を痛切に感じた。生理学の知識については、日本語で勉強する限りは多少の自信はあつたものの、英語で問われる途端に問題の意図を捉えられなくなることがあつた。また教科書には載っていないような生理学的背景の考察を求められるような問題に対しては、生理学の分野横断的な理解や知識定着が足りていないことを感じた。一方で他大学の優秀な学生は、問題に対して即座に生理学的事象を推察し、瞬時に英語で回答しており、医学知識、英語力、洞察力どれをとっても我々を上回っていることを実感した。大学によっては母国語が英語でなくても医学教育は英語で行われていたり、教科書は英語版の成書を使っているといった大学が多く、日本の医学生はその点で大きなディスアドバンテージを背負っているのだと学んだ。

また Cultural Night で我々チームは、日本発祥の文化の1つである折り紙のワークショップを約 200 人の学生の前で実施した。このような大勢の観客の前で、英語でパフォーマンスをするという機会は今後そうあるものではないため、貴重な経験の1つとなつた。また大会を通じて他大学との交流を行い今後の繋がりを得られたことも価値ある成果の1つである。

5. 今後の抱負

世界の医学の標準は英語であるが、日本語で勉強している段階から、世界と対等に英語で医学を議論できる段階までには、数多くの障壁が待ち構えていることを理解した。その第一歩として、まずは1冊医学成書を英語で読んでみることに挑戦するとともに、積極的に英語での交流・発表の機会を求めていきたいと思う。

また、普段与えられた試験のために勉強をこなしているだけだが、クイズのようなわずかな競争心や楽しさがあるだけで勉強が楽しいものになることを実感した。このような取り組みを少しでも普段の学習で真似て、周囲に広げていければと思う。

最後に、このような貴重な経験を得るにあたって資金面で多大なるご支援を頂きました岸本忠三先生、ご推薦頂きました和佐勝史先生、岡村康司先生に深く感謝申し上げます。

2019年度岸本国際交流奨学金による海外活動実施報告書

| | | | |
|--------|----|------------|--------|
| 医学部医学科 | 3年 | 学籍番号：***** | 氏名：N・S |
|--------|----|------------|--------|

| |
|------------------------------------------|
| 渡航先国：インドネシア |
| 受入機関名：インドネシア大学 |
| 渡航先機関での受入期間： 令和1年8月21日～令和1年8月22日（2日間） |

1. 活動の目的

我々は、8月21日から22日までの2日間にわたって開催された、第17回国際医学生生理学クイズ大会（Inter Medical School Physiology Quiz, IMSPQ）に参加した。本大会への参加を通じ、医学の基礎となる生理学および医学英語の知識を深めるとともに、世界各国から集う医学生との交流を通じ、そのレベルを肌で実感する頃ことを目的として活動した。

2. スケジュール

| 日程 | 活動内容 |
|---------|---------------|
| 8/18-19 | 出国（日本→インドネシア） |
| 8/19-20 | 周辺観光、事前準備 |
| 8/21-22 | IMSPQ 大会当日 |
| 8/22 | 帰国（インドネシア→日本） |

3. 活動内容

8月18日、我々参加メンバーのうち一部は成田国際空港で合流し、開催地インドネシアに向け出発した。海外開催ということで、メンバーは多少緊張しながら、空港や航空機内でもクイズに向けた勉強に励んだ。

無事インドネシアに到着し、8月19日、20日の日中は、滞在地の周辺観光をした。インドネシアには、手つかずの大自然とともにかつての古代遺跡が数多く残されており、そのいくつかは世界文化遺産に登録されている。今回は、その内の代表格ともいえるプランバナ寺院、ボロブドゥール遺跡を観光した。また、観光地でも現地の大学生ガイドに案内してもらうなど、国際交流を楽しんだ。インドネシアの街並みや文化の違いを実感する非常に充実した2日間となった。この2日間の観光の隙間時間や夜間もクイズに向けた勉強をメンバー全員で行い、最終確認をした。

IMSPQ 大会当日。会場へ到着すると、各国からの出場メンバーがすでに大勢控えており、直前でも知識を詰めたり仲間と確認し合う学生の姿を見て、クイズに対する情熱を感じた。

本大会の 1st round は、100 問の正誤問題を 75 分で回答する形式になっている。残念ながら、我々のチームは次の round に進むことができなかった。その後は、勝ち進んだ海外チームの oral section を観戦した。我々は彼らの幅広い知識とその回答の速さにただただ圧倒された。その夜は、出場した各大学が参加し、出し物を行う Cultural Night に参加した。我々は、折り紙のワークショップを披露した。世界各国から集まった医学生らと作ったのは、Physiology にちなんでハート（心臓）。参加学生らは初めての折り紙に苦戦していたが、手取り足取り教えていくと最後には多くのハートが完成した。この日の活動は、今後国際的な視野を持って医学を勉強していくにあたって、国内での活動では決して味わえない非常に有意義なものであった。

4. 成果

IMSPQ はもともと英語を母国語としない国の医学生どうしが、英語で生理学の知識を競い合う大会である。ゆえに、日本人であるからといって、問題文が英語であることに対するハンデは無いはずである。しかし、他大学の学生の解答速度には目を見張るものがあり、医学知識以前に英語力の差を突き付けられることになった。

問題のレベルそのものも非常に高いものであった。一般的な教科書の単純暗記で解答できるような問題はほとんどなく、自身の持つ生理学的知識を背景にした考察を要する問題が多かった。大会前日までも米国などで多くの学生が使用している問題集で練習をしていたが、IMSPQ の問題を通して、断片的な知識ではなく、それらを統合した深い理解が必要であることを実感した。

また、英語を母国語としていなくとも、多くの海外の学生が医学教育を英語で受けており、我々日本の医学生が大きなディスアドバンテージを抱えていることを知り、それがこれからの勉強に対するモチベーションへとつながった。

5. 今後の抱負

たとえ日本語で知識を詰め、それを考察できたとしても、ひとたび言語を変えようとすると同じように再現するのは難しい。まずは医学英語とは別に、英語で現象を理解し、それを考察できる英語力を養うことが急務だと感じた。さらに、これから臨床医学の講義が始まるため、その前に再度、生理学をはじめとした基礎医学の復習をし、体系的・統合的な理解を確立したいと思う。また、自分は大学の講義に加え、部活動やその他日常生活の中で様々な活動に手を伸ばしており、自身の周りにも同じような友人が大勢いるが、海外には多くの時間を医学の勉強に割き、向上心をもって優秀な医師を目指している同級生がいることを強く自覚して、これからの大学生活を過ごしていきたい。

最後になりますが、この活動で得られた貴重な経験は、岸本国際奨学金による援助があってこそのものでした。岸本先生、ならびに関係者の方々に厚く御礼申し上げます。

2019（令和元年）岸本国際交流奨学金による海外活動報告書

医学部医学科3年 *****

H・S

8月19日から22日までの4日間、インドネシアに渡航し、インドネシア大学で行われたIMSPQ（国際医学生生理学クイズ）という大会にチームで参加した。

以下はその報告である。

<日程>

- 8/18 出国（夜）
- 8/19 到着（朝）、プランバナシ遺跡見学
- 8/20 ボロブドゥール遺跡、ジョグジャカルタ王宮見学
- 8/21 IMSPQ大会一日目
- 8/22 IMSPQ大会二日目
- 8/23 帰国

<活動内容>

19日、20日（ジョグジャカルタ観光）

到着日の19日はプランバナシ遺跡に行った。この遺跡は世界文化遺産で、大小237の祠堂のヒンドゥー教の三大神をはじめとする神様が祀られている。たまたまおられた日本語を勉強しているという観光学科の大学生に案内していただくことが出来て、歴史やそれぞれの堂について説明していただき、とても勉強になった。

大会前日となった20日はボロブドゥール遺跡に行った。この遺跡も世界文化遺産であり、1000年以上前に建てられた世界最大級の仏教寺院である。日の出を迎えるツアーが有名ということで、朝の三時半にホテルを出発し、まだ暗いうちに遺跡に入った。あいにく天気が曇りで、期待通りのきれいな朝日を見ることはできなかったものの、世界最大の仏教遺跡で迎える日の出は幻想的だった。

二日とも、ホテルでの時間は勉強した知識の再確認や、分担して解いた問題集に書いてある知識の共有をした。

21日（大会1日目）

朝から予選のペーパーテストがあった。予選突破を目標にそれなりに準備をして臨んだと

思っていたものの、勉強の詰めが甘かったことを実感する解きごたえだった。単純な暗記では対応できない良問ぞろいで、なんとなくわかっているも選択肢が絞り込めず、とても悔しかった。



21日（大学見学）

大学の図書館、医学部棟を見学した。施設の違いについて話すことで、ほかの大学との学習環境や勉強法、授業形態などに関するいろいろな話せたのが面白かった。

21日（cultural night）

大会一日目の夜には、cultural night という、各国の希望する大学が自国の文化を紹介する時間があった。私たちは、折り紙の文化を紹介することにし、私は前で power point を見せながらマイクで説明する係になった。先生方をはじめとする大勢の人を前に英語で話すのは今から考えるととても貴重な機会でも、緊張してもおかしくなかったのだが、勉強に追われて準備がほとんどできておらず、話すのに必死で緊張する間もなかった。終わった後にはいろんな方に褒めていただいた。嬉しかったし、自分の英語が通用する自信になった。また、折ったハートを掲げてもらってステージから撮らせていただいた全体の写真は、自分の宝物になった。ただ、その後いろいろな方に“折り紙のチーム”として話しかけられ、図らずもクイズでなく折り紙で強い印象を残してしまったことに対しては少し悔しく感じた。



22日（大会2日目）

次の日の準々決勝以降は、問題が読み上げ形式になった。観戦しながら問題の書き取りをした。勝ち上がった各大学のレベルがとても高く、圧倒され続けた。聞き取って意味を理解するのがやっとの問題を、短い制限時間で解答しなければならないのだが、全問正解に近い大学が多々あり、驚いた。母語が英語でない学生が集まっていたのだが、医学教育を英語で受けている国との医学英語の定着度の差を感じた。

<得られた成果>

今回の海外活動で得られた成果は大きく二つに分けられると考えている。一つ目は大会参加をはじめとする現地での活動により得られたこと、二つ目は大会参加のための準備をする中で得られたことである

*現地で得られた成果

まず、いろいろな国から集まってきた同年代の大学生と出会うことが出来た。皆、大会への参加を目的に来ていたため、意識の高い、真面目な学生が多かった。交流のための時間は特に設けられていなかったため、そこまで多くの学生と話すことはできなかったが、空き時間に、インド、インドネシア、タイ、マレーシア、台湾、ロシアから来た学生と話せた。他愛もない話をしたり、医学教育の制度について議論したり、とても楽しかった。問題なく各国の大学生と会話できたこと、cultural nightでのプレゼンが上手くいったことから、日常会話程度の英語は十分通用することが分かり、自信になった。

次に、大会を通じては、とにかく周りの学生のレベルの高さ、大会のレベルの高さに圧倒さ

れ続け、自分の持つ知識の少なさとあやふやさを痛感した。同じ年代の学生が自分よりはるかに多くの知識と英語力を持っていることが衝撃的で、このレベルの学生と同じくらいになれるように、頑張って勉強したいと思った。

加えて、4日間滞在したインドネシアという国について、文化や暮らしの様子を少し感じ取ることが出来た。インドネシアは今まで私が訪問した国の中で最も発展途上の国で、ちょっと郊外に出ると家がボロボロだったり、夜遅くの大通りに小さな子を連れた家族が座っていたりと、びっくりするような光景ばかりだった。インドネシアでは英語が通じないことも多く、現地の学生が安い個人タクシーの手配やその他の英語では難しいことを親身になって手伝ってくれた。助けを借りられる人がいる、このような環境で渡航できたことをありがたく思った。

*大会に向けての準備を通じて得られた成果

国際医学生生理学クイズという大会に参加するにあたり、二年次において履修したきりの生理学をさらに深いところまで学習し、さらに、英語で問題が解けるようにする必要があった。教材としては Lindas Costanzo Review for physiology を用い、私は日本語の教科書数冊を併用した。準備は半年前頃から始め、チームで計画を立てて勉強を進めていった。その中で得られたものとしては、まず生理学に関する知識量、理解の向上、そして英語力、特に医学英語の単語量の向上が挙げられる。

また何よりも、チームのメンバーは学士編入の方や、日ごろから自分よりも意識を高く持って勉強することが出来ていることのできている同回生ばかりで、そのような人としゃべったり、一緒に勉強したりしたことは、とても大きな刺激になった。また、そのような人と今後も続くような関係を築けたことは自分にとって財産になったと強く思う。

<今後の抱負>

今回、生理学という基礎医学の中でも基礎となる科目を学習しなおしたわけであるが、テストで点数を取るためにテストに出るところだけを勉強していた二年生の時とは異なり、長い期間をかけてすべての範囲に関してしっかりと理解をしていく勉強は楽しく感じた。それに伴って他の科目（形態学、生化学など）での知識の不足を実感したので、また学習しなおしたいと思う。英語に関しては、知識を持っていても英語でアウトプットするのはかなり難しいと実感したこと、医学を英語で学んでいる学生の英語力を目の当たりにしたことから、医学英語をしっかりと勉強しようと改めて思った。

また、今まで何度か海外に短期留学に行かせていただいているが、その経験から、海外に行って、刺激を受けたからには、何か実行に移さなければ意味が半減すると考えている。今回に関しては、上で述べたように、医学英語、基礎医学の勉強をしっかりとしようと思った。その具体的な方法はまだ検討中だが、今のところ、USMLE の step1 の勉強をすることを考え

ている。どのような形になるにしても、今回得た刺激をしっかりと今後に活かしていきたいと思う。

最後になりましたが、今回の大会への参加を支援していただいた岸本忠三先生、岸本国際交流奨学金関係者の方々、生理学教室の岡村先生、大会の情報をくださった大阪医科大学の方々、大会関係者の先生方とインドネシア大学の学生に、心からお礼を申し上げます。また、参加しないかと誘ってくれたチームのメンバーにも本当に感謝しています。ありがとうございました。